

2022

第9回福岡県
木造・木質化建築賞



ご挨拶

森林は、再生可能な資源である木材の生産だけでなく、二酸化炭素の吸収による地球温暖化の緩和、土砂災害の防止、豊かな水や空気の供給など、さまざまな面から私たちの安全・安心な暮らしを支えています。

この森林の恵みを持続的に享受していくためには、森林の適正な整備・保全を続けながら利用期を迎えた森林資源を有効活用する、「伐って、使って、植えて、育てる」サイクルを維持する必要があります。

このため、県では、公共建築物だけでなく、民間建築物も含めた建築物全般の木造・木質化の推進に向け、県産木材を利用した木質リノベーションへの支援や、商業ビルやオフィスビルの木造化に必要な県産木材の供給体制づくりや建築士の育成を進め、新たな需要の創出に取り組んでいるところです。

こうした取り組みを進める上でモデルとなる優れた建築物を表彰する「福岡県木造・木質化建築賞」も、今年度で第9回を迎え



福岡県知事
服部 誠太郎

した。

今回は、多くの方が訪れる商業施設や古民家の木材を再利用した住宅、近年注目されているCLT^{*}を使用した施設など多数の応募をいただき、選考委員会の厳正な審査を経て、大賞2点、優秀賞3点、特別賞2点、奨励賞4点、計11点を「福岡県木造・木質化建築賞」に決定しました。受賞された建築物は、いずれも木の持つ温かみや木目の美しさといった、木材ならではの特長を生かした素晴らしいものです。近くにお越しの際にはぜひこれらの建築物をご覧になり、木材の良さを感じていただきたいと思います。

県では、引き続き、県産木材の需要拡大に向けた取り組みを進めてまいります。今後とも、皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、選考委員の皆さまのご尽力に深く感謝申し上げますとともに、受賞者ならびに応募いただいた皆さまのますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

※Cross Laminated Timber の略。板の層を互いに直交する積層接着した厚型パネル。断熱性と耐震性に優れており、中高層建築等の木造化による新たな木材需要の創出が期待される。

総評

元来、建築物の多くが木造であった日本は、都市部の大火による甚大な被害を経験し、中大規模建築を中心に鉄骨造・鉄筋コンクリート造が現在の主流となっています。特に高度成長期にはコンクリート、金属などを建築材料とした建設技術が目覚ましい発展を遂げました。一方、地球温暖化対策として脱炭素社会の推進が求められる今、材料の生産、建築物の維持・活用、解体・廃棄のそれぞれの過程で二酸化炭素排出を抑える配慮が求められています。木材はそれ自体が大気中の二酸化炭素を吸収固定化した材料であり、加工や廃棄に伴う二酸化炭素排出が低い環境にやさしい再生可能材料です。また、断熱性も高い木材は、使い方によって住環境の向上や冷暖房の省エネルギーに貢献するほか、一定の防耐火性、強度性能を有しています。合板、LVL、集成材やCLTなどの木質材料の性能向上、利用技術の開発が進み、コンクリートや金属に代わって木材が使用される建築事例も多く見られるようになりました。このような事例を広く知っていただくことが木材の利用促進には重要であり、福岡県木造・木質化建築賞の意義もさらに高まりつつあります。しかし、中大規模の建築では、木材はコンクリートや鉄に比べ「品質」「量」「価格」「納期」などの面で思うように調達



福岡県木造・木質化建築賞
選考委員会
委員長 藤本 登留

することが難しい材料といわれています。生物材料である木材の調達の工夫について参考となる受賞作品もありますので、今後の木造建築にお役に立つものと期待しています。

第9回福岡県木造・木質化建築賞の選考では27点の応募があり、住宅が10点、保育施設が6点、事務所や研修施設が6点、その他店舗などの建築作品が見られました。このうち、内装を木質化した鉄筋コンクリート造などの非木造建築が5点、木造および木造との混構造が22点です。

第1次選考は、6名の選考委員によって書類審査を実施し、協議および投票によって11点を最終選考の対象建築物に選出しました。

最終選考は、2日間にわたり実施しました。11点の対象建築物を現地審査したうえ、最終選考委員会で協議および投票によって大賞は木造の部、木質化の部の各1点、優秀賞は木造の部2点、木質化の部1点、特別賞2点、奨励賞4点の全11点が受賞建築物に決定しました。木造の部の大賞は、企業の研修施設で、都市郊外の丘陵地にある森林環境に溶け込んだリラックスできる開放的な木造建築です。木質化の部の大賞は、事務所建築でありながら木材、鉄骨、コンクリートを構造材として居心地の良い開放的な木質空間を創りだし、外観的には外周4面が開放的で庇が深い切妻屋根の、周囲の緑になじむ魅力的建築です。受賞作品はいずれも施設の用途別機能性を備えた木の魅力あふれる建築物です。

最後に、審査にご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

福岡県木造・木質化建築賞 概要

1 表彰の目的

県では、県産木材の需要拡大の推進をより一層図るため、県民の皆さんや建築関係の方々に対し、木造・木質化に優れたモデル的な建築物を紹介し普及啓発することを目的に、本賞を実施しています。

2 賞の対象

公共建築物や店舗・住宅等の木造・木質化を推進するにあたり、モデルとなる優れた建築物

3 賞の部門

- 木造の部（大賞・優秀賞） ●木質化の部（大賞・優秀賞）
- 特別賞 ●奨励賞

4 主な選考基準

- *国産材を創意工夫により活用し、林業振興に寄与しているもの
- *木材の特徴や良さを活かし、建築物の木造・木質化に波及効果があるもの

5 選考委員

役職	氏名	職名
委員長	藤本 登留	九州大学農学研究院准教授
副委員長	大森 洋子	久留米工業大学 建築・設備工学科教授
委員	工藤 卓	元近畿大学産業理工学部 建築デザイン学科教授
委員	松尾 智昭	(一社)福岡県木材組合連合会 専務理事
委員	岩尾 款	西日本新聞社クロスメディア報道部 デスク兼記者
委員	真井 浩一	福岡県農林水産部林業振興課長

木質化の部 優秀賞

幼保連携型認定こども園 若草幼稚園(あかりえ・みどりえ)

所在地:大牟田市



写真撮影:タナカ写真スタジオ田中太

建築主 | 学校法人泉ヶ丘学園 理事長 安元大介
設計者 | 内記建築設計室 代表 内記英文
施工者 | 株式会社今村組 代表取締役 今村勝之
建築物の用途 | 幼保連携型認定こども園
構造・規模(階数) | 木造(在来工法)・
(あかりえ)地上2階 (みどりえ)地上1階
延床面積 | (あかりえ) 1,426.85㎡ (みどりえ) 323.79㎡

設計趣旨

大牟田市から雲仙普賢岳まで一望できる泉ヶ丘に、創立70周年の記念事業として、2つの新園舎(あかりえ、みどりえ)と屋根付き園庭(ソラシドーム)の建設が計画された。

過疎化や少子化の影響が顕著な県南地域において、選ばれる幼稚園となるため、園児、保護者、教職員の安全と快適性、質の高い教育や保育に対応できる展開力を備えた空間、また災害に強く地域に開放できる施設であること、そして何よりも、木の香りのする温かい雰囲気のある園舎づくりが求められた。

保育エリアを平屋部分としたため耐火等の構造要求はなかったが、防火壁や内装制限を避けるため木造の準耐火構造とし、結果、内装の木質化を徹底することとした。また、敷地にある最大4.5mの高低差を建築の断面で吸収することにより、天井の低いロフトや立体的な絵本コーナーなど、子どもたちにとって発見と経験の空間を生み出すことができ、かつ、住宅地の景観として建物のヴォリュームを低く抑えることにも繋げることができた。

園内各所には「幼稚園の歴史」や「ふるさと大牟田」のことを描いた壁画イラストが散りばめられており、ここで学び育った子どもたちが、ふるさとを愛し大切に想う心を育ててくれることを願っている。

特別賞



幸福の青い鳥 所在地:八女市

建築主 | 個人
設計者 | 立石建築設計事務所 代表 立石信夫
施工者 | 井上建築 代表 井上静夫
建築物の用途 | 住宅
構造・規模(階数) | 木造・地上1階
延床面積 | 137.48㎡

設計趣旨

田園が広がる地域の一角に建つ住宅。どこにでもあるように見える入母屋造りではあるが、今ではめずらしい自然乾燥した県産木材(八女杉)を使用している。

伝統技術でもっと家の素晴らしさを発信するため、構造部材を手刻みで加工している。昔の住宅に使用されていた松の木の梁組も手刻みで取り入れている。

土壁塗り、漆喰仕上げと燻された古材も融合させ、木造住宅で昔ながらの自然素材の家が夢だった施主の思いを実現させた。



宇美八幡宮保育園 所在地:糟屋郡宇美町

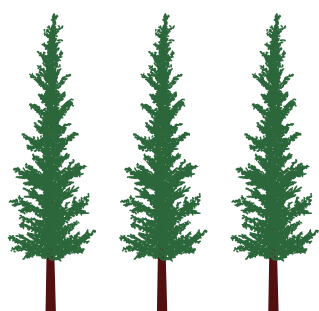
建築主 | 社会福祉法人子安会 理事長 伊藤佳和
設計者 | 株式会社IWAKIRI S.A.一級建築士事務所 代表取締役 岩切重男
施工者 | 株式会社和技研 代表取締役 花田和彦
建築物の用途 | 保育園
構造・規模(階数) | 木造・地上1階
延床面積 | 613.21㎡

設計趣旨

縁と下屋・庇構造により作られる開放性と内外空間の連続性という日本建築のもつ形態的特質に、深い軒の環境調整機能を活かし採光補正・外気取入れチャンパー機能を持たせたハイサイドライトを設け新たな仕組みを持つ構成としている。

伝統的木工技術に支えられた木構造の架構が意匠空間となるよう、小梁を渡り腰(あご)掛けの仕口にて大梁にかみ合わせ連続梁桁構造とし強度を高め、同時に小梁に支えられる天井を大梁から浮かし木構造のフレームを顕在化させた空間とした。

類焼により消失した園舎を伝統的建造物の調査保存修復にも携わり技術の研鑽を重ねる棟梁とその大工集団の手刻みによる仕口と継手の木造の技術で再建し、園児たちに作るところから木造に触れてもらえることができたが、サステナブルな木工事の生産基盤の機会創出、木工事施工者の維持、施工体制・発注方式が望まれる。



2022 第9回福岡県木造・木質化建築賞

令和5年3月

福岡県農林水産部林業振興課木材流通係

TEL092-643-3549 FAX092-643-3541

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/gyosei-shiryo/mokuzou9panfu.html>



福岡県行政資料	
分類記号 PF	所属コード 4701002
登録年度 04	登録番号 0007